

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年
9月21日
第103号



フジバカマ（キク科）

第一圃場で、もじゃもじゃした柔らかい感じの花姿が見られます。秋の七草のひとつとしても知られてますね！中国原産の多年草で、古墳時代には日本に入っていました。花の蜜は蝶に大人気で、アサギマダラやタテハチョウなどがやって来ます。近年まで川の土手や草地に自生してましたが、今ではめったに見られなくなりました（準絶滅危惧種）。全草を乾燥したものが生薬となり、日本では蘭草（ランソウ）といい、利尿、通経、利胆を目的に、また浴湯料として用い、中国では山佩蘭（shānpèilán）といい、解表化湿、理気活血を目的に使用します。「蘭」の字は、現代ではラン科植物のことを指しますが、古代は香りのよい植物の総称として利用されていました。

「佩」の字は腰から下げる（おびる）という意味で、乾燥フジバカマを匂袋として身につけて使っていました。フジバカマの生の植物体には香りはありませんが、乾燥させると桜餅のような香りがします。これは成分中のクマリン配糖体が分解してクマリンやクマリン酸になることによるものです。

イタドリ（タデ科）

資材倉庫の近くで沢山の白花が咲いています。別名のスカンポのほうが、お馴染みですね！春先のタケノコのような形をした若い茎は酸味があり、生食、塩漬け、煮物、油炒め等で食します。この酸味はシュウ酸によるので、美味しいからといってあく抜きせずに食べすぎると、腎結石や尿路結石の原因になることですのでご注意ください！東アジア原産で、日本全土に分布、日当たりのよい荒地や斜面に生える雌雄異株の多年草です。若い茎の紅紫斑をトラの模様に見立て、根茎および根が虎杖根（コジョウコン）という生薬になります。日本の民間薬として緩下、利尿、通経を目的に、中医学では利湿退黄、清熱解毒を目的に使用します。

いま、こんな花木
がたのしめますよ！！